



## 2026年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2026年2月13日

上場会社名 株式会社 ピエトロ 上場取引所 東  
 コード番号 2818 URL <https://www.pietro.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高橋 泰行  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経営企画室長 (氏名) 池田 章朗 TEL 092-724-4927  
 配当支払開始予定日  
 決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2026年3月期第3四半期の連結業績(2025年4月1日～2025年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	9,203	8.7	149	28.8	28	86.1	9	
2025年3月期第3四半期	8,468	11.3	210	0.8	207	7.6	116	14.5

(注)包括利益 2026年3月期第3四半期 8百万円 ( ) 2025年3月期第3四半期 103百万円 ( -13.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益	
		円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	1.41		
2025年3月期第3四半期	16.86		

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年3月期第3四半期	14,766	6,221	42.1	898.02
2025年3月期	10,271	6,358	61.9	920.60

(参考)自己資本 2026年3月期第3四半期 6,221百万円 2025年3月期 6,358百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年3月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期		0.00		24.00	24.00
2026年3月期(予想)		0.00		24.00	24.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2026年3月期の連結業績予想(2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	12,000	1.8	160	54.3	12	93.8	39		5.72	

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

#### 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無

新規 社 (社名)

、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2026年3月期3Q	7,062,230 株	2025年3月期	7,062,230 株
期末自己株式数	2026年3月期3Q	134,282 株	2025年3月期	155,618 株
期中平均株式数(四半期累計)	2026年3月期3Q	6,917,280 株	2025年3月期3Q	6,896,324 株

添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述等は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料の4ページ<sup>1</sup>「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9
(セグメント情報等の注記)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2025年4月1日から2025年12月31日）におけるわが国経済は、雇用や所得環境の改善により、景気の緩やかな回復基調が続いている一方、米国の通商政策の影響、物価高の長期化等により、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いています。

食品業界では原材料費の高騰等に伴う様々な商品の値上げ拡大による影響が大きく、消費者の生活防衛意識は高まり続ける一方で、外食業界におきましては、人流の回復等による販売面での堅調さは見られますが、原材料やエネルギー価格の高騰、人件費上昇等、引き続き経営環境は厳しいものとなっています。

このような状況下において、当社グループは、「ファンを大切にする」という理念のもと、ファンベース経営のさらなる強化を行うとともに、商品事業、店舗事業それぞれが持つ強みを活かし、シナジー効果を最大限に発揮した施策を行ってまいりました。

売上面では、商品事業は、エリア戦略とファンベースを軸に、ピエトロブランドの価値訴求を継続するとともに、新規カテゴリーの育成、中長期的な成長戦略としてBtoB事業でもあるデリカ・フードサービス事業、海外事業の強化に取り組みました。また、店舗事業は、さらなるホスピタリティ強化による顧客満足向上のための施策を行ったこと等により、既存店、新店ともに好調に推移いたしました。

利益面では、商品事業、店舗事業ともに売上は好調だったものの、主力商品の原材料である玉ねぎが2025年夏の北海道を中心とした記録的な猛暑と少雨による収穫量の大幅な減少による影響を受けたことと、その他原材料の高騰、人件費の増加、不採算店舗閉店を決定したことによる閉店費用の計上の他、海外子会社でのさらなる売上拡大を目指した育成費用の増加もありました。

さらに、営業外費用として、4月に新工場取得のための新規借入を行ったことによるアレンジメントフィー48百万円、新規借入による支払利息60百万円の計上を行った他、特別利益として既存2工場の売却に伴う固定資産売却益1億94百万円、特別損失として既存1工場の売却決定に伴う減損損失1億66百万円を計上いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は92億3百万円（前年同期比8.7%増）、営業利益は1億49百万円（前年同期比28.8%減）、経常利益は28百万円（前年同期比86.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純損失は9百万円（前年同期は1億16百万円の利益）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりです。

#### ①商品事業

##### ・ドレッシングカテゴリー

ユーザーが感じているサラダの課題を解決する『マジカルサラダ』企画を継続し、ブランド認知向上を図りました。定番の「ピエトロドレッシング 和風しょうゆ」をはじめ、春夏限定の「ピエトロドレッシング うめ」、秋冬限定の「ピエトロドレッシング 和風しょうが」、プレミアムラインの「ピエトロドレッシング プレミアムフレンチ」が好調に推移した他、トッピング商品のフライドオニオン「PATFUTTE（パットフッテ）」シリーズは、レストランのテーブルで自由にお試しいただける“テーブルマークティング”を引き続き強化した結果、順調に売上を伸ばしました。

以上の結果、ドレッシングカテゴリー全体では前年同期を上回る売上となりました。

##### ・パスタカテゴリー

ボトル入りパスタソース「おうちパスタシリーズ」では、世界中で愛されるキャラクター「ムーミン」との数量限定コラボパッケージによる拡販が奏功し、順調に売上を伸ばしました。

“あえるだけ”で本格的な一品ができるトッピング付きパスタソースとして、2024年3月に発売した「ピエトロ あえるだけパスタソースシリーズ」は、調理の手軽さが好評を得て、大きく売上を伸ばしました。

また、レトルトパスタソース「洋麺屋ピエトロ」では、定番の「お肉好きのあなたのためのボロネーゼ」「なすとひき肉の辛味スパゲティ」が好調に推移した他、レストランのまかないメニューから生まれた新商品の「にんたら」が大きく伸長しました。

イタリアのパスタブランド「AGNESI」は“ピエトロレストランで使用するプレミアムパスタ麺”として業務用、家庭用のパスタを販売するとともに、「AGNESI」の麺を使用した冷凍パスタが好調に推移いたしました。

以上の結果、パスタカテゴリー全体では前年同期の売上を上回りました。

##### ・冷凍食品カテゴリー

配荷店舗の拡大を目指すとともに、EC市場での認知拡大を図ってまいりました。特に、レストランクオリティのアルデンテ食感を実現した冷凍パスタを中心に、プレミアム価格帯冷凍食品としてのブランド確立に向けた拡販強化を行い、定番商品の他、新商品の「[冷凍パスタ] 洋麺屋ピエトロ 海老とオリーブのトマトクリーミソース」等が売上を伸ばしました。

以上の結果、冷凍食品カテゴリー全体では前年同期の売上を上回りました。

## ・スープカテゴリー

素材や調理法にこだわった「PIETRO A DAY」ブランドとして、季節の国産野菜を使用したスープ等が好調に推移いたしました。また、直販ショップでの販売から自社EC、大手ECモール、雑貨店での販売等、販売チャネルの拡大を行ったことに加え、カジュアルギフトやブライダル関連ギフト市場への開拓を行ったこと等によりスープカテゴリー全体で前年同期の売上を上回りました。

## ・中長期的成長カテゴリー

BtoB事業であるデリカ・フードサービス事業は、レストランクオリティの商品と調理オペレーションノウハウをスーパーの他ホテル業界や外食チェーン等に展開し、着実に売上を伸ばしました。また、海外事業では、北米、アジア圏に注力し、北米では海外子会社での大手食品卸との取引を手がかりにさらなる小売への配荷拡大、アジア圏へは冷凍食品、パスタソース等の輸出で拡販強化を行いました。

利益面では、効率的な販促活動に努めたものの、国内外において主力商品の主原料である玉ねぎや食用油をはじめとする原材料価格の予想以上の高騰による原価率の悪化や、物流費の高騰等の影響を受けました。

この結果、セグメント売上高は54億6百万円（前年同期比5.0%増）、セグメント利益は12億13百万円（前年同期比3.2%減）となりました。

## ②店舗事業

レストラン店舗では、「原点を大切にするお店作り」を目指すとともに、味、雰囲気、サービスの総合点を高め続けるための人財育成投資を継続し、さらなるお客様満足度向上、店舗スタッフ満足度向上を図ってまいりました。メニュー施策では、季節限定メニューの強化や、定期的なランチメニューの見直しを行うとともに、継続的な原材料価格の高騰への対応及びお客様にさらに満足していただける付加価値の高いメニューの提供を目指し、一部メニューの値上げを実施いたしました。これらの施策の結果、顧客単価、来客数ともに前年同期を上回り、既存店、新店ともに好調に売上を伸ばしました。

利益面におきましては、レストラン店舗の既存店、新店ともに売上は好調に推移しましたが、原材料価格や人件費等の上昇があったことに加え、不採算店閉店の決定を行ったことによる閉店費用の計上もありました。

この結果、セグメント売上高は36億62百万円（前年同期比14.7%増）、セグメント利益は88百万円（前年同期比3.0%減）となりました。

店舗の新規出店につきましては以下のとおりです。

出店時期	店舗名
2025年4月	ピエトロ イオンモール名取店（宮城県）
2025年6月 ※	ピエトロ 次郎丸店（福岡県）
2025年6月 ※	ピエトロ 永犬丸店（福岡県）
2025年10月	ピエトロ イオンモール須坂店（長野県）

※についてはリニューアル店舗となります。

## ③その他（本社ビルの賃貸等）事業

その他（本社ビルの賃貸等）事業におきましては、売上高1億34百万円（前年同期比8.0%増）セグメント利益は48百万円（前年同期比1.5%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ44億94百万円増加し、147億66百万円となりました。これは主に新工場用設備の取得により建設仮勘定が36億73百万円、新工場建設に向けた既存工場の売却等により現金及び預金が10億68百万円の他、売掛金が4億98百万円増加する一方、新工場建設に向けた既存工場の売却により建物及び構築物が5億13百万円、土地が3億20百万円減少したこと等によるものであります。

負債合計は前連結会計年度末に比べ46億31百万円増加し、85億45百万円となりました。これは新工場建設に伴う長期借入金が33億41百万円、短期借入金が8億20百万円の他、買掛金が3億52百万円、未払金が1億54百万円増加したこと等によるものであります。

純資産合計は前連結会計年度末に比べ1億36百万円減少し、62億21百万円となりました。これは譲渡制限付株式報酬制度に伴う自己株式の処分36百万円、前期決算の剰余金の配当1億65百万円があったことによるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年5月15日に公表いたしました2026年3月期の連結業績予想を下記の通り修正いたしました。

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益（円）
前回予想 (A)	11,786	350	200	60	8.69
今回予想 (B)	12,000	160	12	△39	△5.72
増減 (B-A)	214	△190	△187	△99	—
増減率 (%)	1.8	△54.3	△93.8	—	—
(ご参考) 前期実績	11,135	177	160	57	8.38

詳細につきましては、本日（2026年2月13日）に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流动資産		
現金及び預金	1,122,616	2,191,321
預け金	54,394	87,821
売掛金	1,519,896	2,018,072
商品及び製品	252,887	292,797
仕掛品	12,499	15,025
原材料及び貯蔵品	157,058	212,422
その他	155,993	127,309
貸倒引当金	△6	△30
流动資産合計	3,275,339	4,944,739
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,489,359	1,975,976
土地	3,064,878	2,744,170
建設仮勘定	102,700	3,776,627
その他（純額）	609,514	649,597
有形固定資産合計	6,266,453	9,146,372
無形固定資産	59,658	62,155
投資その他の資産		
敷金及び保証金	446,640	439,227
その他	242,877	193,314
貸倒引当金	△19,218	△19,213
投資その他の資産合計	670,299	613,328
固定資産合計	6,996,410	9,821,855
資産合計	10,271,750	14,766,595

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	590,644	943,579
短期借入金	1,350,000	2,170,000
1年内返済予定の長期借入金	16,667	—
未払金	579,007	733,847
未払法人税等	25,903	36,667
契約負債	30,207	36,663
賞与引当金	78,986	41,530
その他	464,835	479,518
<b>流動負債合計</b>	<b>3,136,252</b>	<b>4,441,807</b>
<b>固定負債</b>		
長期借入金	—	3,341,000
リース債務	97,502	69,432
長期未払金	173,887	169,261
退職給付に係る負債	194,133	190,560
資産除去債務	189,388	210,454
その他	122,386	122,669
<b>固定負債合計</b>	<b>777,299</b>	<b>4,103,377</b>
<b>負債合計</b>	<b>3,913,551</b>	<b>8,545,185</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	1,719,897	1,719,897
資本剰余金	1,759,623	1,760,071
利益剰余金	3,085,394	2,909,891
自己株式	△266,597	△230,048
<b>株主資本合計</b>	<b>6,298,318</b>	<b>6,159,812</b>
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	5,273	10,130
為替換算調整勘定	54,605	51,466
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>59,879</b>	<b>61,597</b>
<b>純資産合計</b>	<b>6,358,198</b>	<b>6,221,409</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>10,271,750</b>	<b>14,766,595</b>

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	8,468,857	9,203,315
売上原価	4,132,537	4,575,682
売上総利益	4,336,319	4,627,632
販売費及び一般管理費	4,125,605	4,477,670
営業利益	210,713	149,962
営業外収益		
受取利息	297	2,775
受取配当金	404	596
為替差益	4,209	122
その他	2,449	2,541
営業外収益合計	7,360	6,034
営業外費用		
支払利息	6,772	75,497
シンジケートローン手数料	1,845	50,766
その他	1,848	922
営業外費用合計	10,466	127,186
経常利益	207,607	28,810
特別利益		
固定資産売却益	18,555	194,969
特別利益合計	18,555	194,969
特別損失		
固定資産除却損	1,159	69
減損損失	—	169,050
特別損失合計	1,159	169,120
税金等調整前四半期純利益	225,003	54,658
法人税、住民税及び事業税	104,497	19,665
過年度法人税等戻入額	△19,689	—
法人税等調整額	23,911	44,737
法人税等合計	108,720	64,403
四半期純利益又は四半期純損失(△)	116,282	△9,744
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	116,282	△9,744

## (四半期連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	116,282	△9,744
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	494	4,856
為替換算調整勘定	△13,401	△3,138
その他の包括利益合計	△12,907	1,717
四半期包括利益	103,375	△8,027
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	103,375	△8,027

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	341,451千円	330,694千円

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

## I 前第3四半期連結累計期間（自2024年4月1日 至2024年12月31日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	商品事業	店舗事業	その他 (本社ビル等の 賃貸) 事業	計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	5,150,049	3,194,744	1,120	8,345,914	—	8,345,914
その他の収益	—	—	122,942	122,942	—	122,942
(1) 外部顧客への売上高	5,150,049	3,194,744	124,063	8,468,857	—	8,468,857
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	5,150,049	3,194,744	124,063	8,468,857	—	8,468,857
セグメント利益	1,253,033	90,997	47,508	1,391,540	△1,180,826	210,713

(注) 1 セグメント利益の調整額に含めた各セグメントに配賦できない金額は1,180,826千円であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間（自2025年4月1日 至2025年12月31日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	商品事業	店舗事業	その他 (本社ビル等の 賃貸) 事業	計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	5,406,452	3,662,837	350	9,069,641	—	9,069,641
その他の収益	—	—	133,673	133,673	—	133,673
(1) 外部顧客への売上高	5,406,452	3,662,837	134,024	9,203,315	—	9,203,315
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	5,406,452	3,662,837	134,024	9,203,315	—	9,203,315
セグメント利益	1,213,474	88,234	48,238	1,349,947	△1,199,985	149,962

(注) 1 セグメント利益の調整額に含めた各セグメントに配賦できない金額は1,199,985千円であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「商品事業」セグメント、「店舗事業」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において、「商品事業」セグメントで166,853千円、「店舗事業」セグメントで2,196千円であります。